

高山の文化を高めた人々

〈10〉

郷土民踊の普及指導と発展に生涯を尽くした

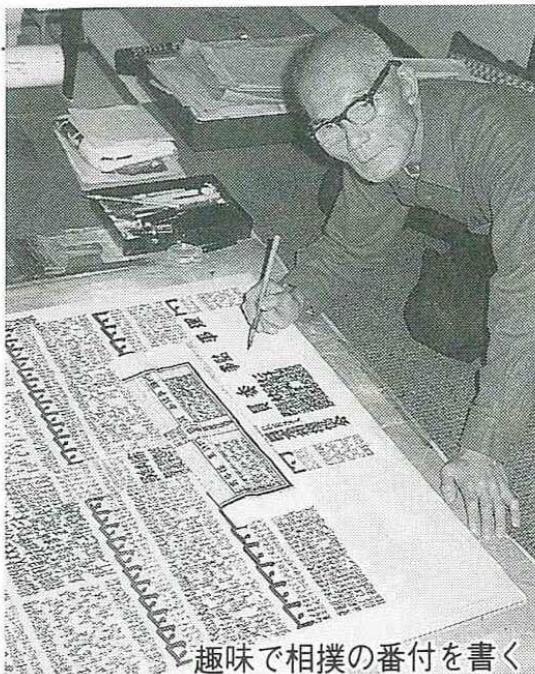
小坂豊山

樂器屋の小坂豊山翁といえど、個性豊かで粹な民踊界の大御所で、私は昭和十七年頃、高山市商工青年学校で指導を受けて以来ご親交を頂いてきました。

翁は、子供の頃から音楽・舞踊を好み三味線・義太夫など幅広く芸事を学ばれたと聞いております。あの、がつしりした体と、どうの効いた声は印象的でした。翁が郷土民踊发展のため情熱を注がれた生涯の中で特筆すべき事は、昭和三年、「吉左右踊り」と言われていた民踊を「高山踊」と改めコロンビアレコードに吹き込み普及宣伝に努力された事です。

昭和八年、高山民踊保存会を結成し会長に推され、以後五十八年までの五十年間会長を務められました。その間、八幡神社境内に限りていた盆踊りを取締当局に運

動して制限の撤廃に成功、高山音頭の振付の統一、学校職員・婦人会・青年団などに民踊指導をされました。昭和二十二年高山市盆



趣味で相撲の番付を書く

開通により、飛騨高山の観光は一躍、全国的にクローズアップされるや、翁は郷土民踊を通じて観光宣伝事業に積極的に協力され、飛騨高山展を初め、観光展や物産展、主要都市で開催のイベントなど数多くの催事のアトラクションに参加されました。昭和四十年の岐阜国体高山会場に於ける前夜祭で行われた民踊流しの計画実施に当たり指導助言、推進に務められました。民踊流しは現在も夏の恒例行事として実施されています。

翁は郷土民踊は、長い歴史と風土の中で育まれ、當々として今日に受け継がれてきた文化の証しであると考えられ、文化財指定の運動を進められ、四十八年には「高山踊」「飛騨やんさ」は共に高山市指定無形民俗文化財の指定を受けました。「高山踊」は五十三年に岐阜県無形民俗文化財の指定を受け位置付けの確立と伝承に意を注がれました。

翁が、郷土民踊の研究とその普及指導に生涯をかけて尽くされた功績は、各方面から高く評価され、県・市・国の各種団体から数多くの表彰を受けられました。中でも五十八年春の叙勲で、勲五等瑞宝章の榮に浴され、六十一年には高山市芸術文化顕彰を受けられました。日本民踊研究会名誉師範小坂豊山氏は昭和六十三年九月十八日、八十六才で生涯を閉じられました。

趣味の広く豊かなことは語り尽くせない程ですが、腹話術の徳ちゃん、相撲の番付の揮毫、マラソンの選手などご存じの方も多い事でしょう。

日本民踊研究会では春日井市にある民踊塚に合祀し碑にその名を刻み永く功績を顕彰されました。(筆者・元飛騨高山観光協会専務理事)

踊連合会副会長、二十三年高山市文化協会副会長、三十四年日本民踊研究会講師師範、高山市民踊連合会会长、四十一年岐阜県民踊連盟副会長、四十二年岐阜県民踊連盟飛騨地区指導者会長、四十三年日本民踊師範会飛騨地区会長など